

2026都立高校入試問題分析

市進学院

共通問題 国語

配点 大問1 10点 大問2 10点 大問3 25点 大問4 30点(記述 200字作文) 大問5 25点

2026年度試験問題 受検者平均点 74.9点

設問ごと分析

	出題内容	難易度	配点		出題内容	難易度	配点
大問1	漢字の読み			大問4	論説文		
	(1) 臨む	A	2	問1	内容把握	B	5
	(2) 均衡	A	2	問2	内容把握	B	5
	(3) 遵守	B	2	問3	段落構成	B	5
	(4) 憧れる	A	2	問4	内容把握	A	5
	(5) 謹んで	A	2	※	問5	200字作文	C 10
大問2	漢字の書き						
	(1) シュしたイチゴ	A	2				
	(2) カリた本	A	2	大問5	現古融合文		
	(3) サカえた理由	A	2	問1	発言の役割	B	5
	(4) カンランする	B	2	問2	文法(「と」の用法)	A	5
	(5) センリョクを立てる	A	2	問3	内容把握	B	5
大問3	小説文			問4	現代語訳	A	5
問1	表現把握	A	5	問5	仮名遣い	A	5
問2	表現把握	B	5				
問3	表現把握	A	5				
問4	心情把握	A	5				
問5	心情把握	A	5				
				※	は記述問題		

問題分析

1 漢字の読み 2 漢字の書き
3 小説文 4 論説文 5 現古融合文

講評 基本的な問題が多いので、取りこぼさないようにすることが大切。
消去法による選択肢の絞り込みも有効。200字作文以外は全て選択肢問題。

- 漢字の読み 中学生で学習する漢字の範囲から出題
- 漢字の書き 小学校で学習する漢字の範囲から出題
- 心情把握は登場人物の動作、会話から情報を得ることも必要。
この文章では、「僕」と「父」の心情変化を追っていくことが大切。
- 作文は条件を守り、丁寧な字で書くことが重要。事前の練習が効果的。
完全な白紙状態は避ける。部分点をくれるので、それを取りに行く。
作文のテーマは「対話による創造について」
- 古文を知らなくても現代語訳を読めば、内容を推測できることが多い。
意味が分からないときは、繰り返し読んでみる。
2つの文章があるときには、共通点や関連する事柄に注目して読むこと。

難易度の標記

A: 易しい(全問正解したい) 目安→正答率80%以上
B: 標準(落とせない) 目安→正答率70%~60%
C: やや難問(合否を分ける問題) 目安→正答率50%~40%
D: 難問(1問でも出れば良い) 目安→正答率30%~10%
E: 超難問(できなくても気にしない) 目安→正答率10%以下

共通問題 数学

配点 大問1 46点 大問2 12点 大問3 15点 大問4 17点 大問5 10点(記述2題)

2026年度試験問題 受検者平均点 60.4点

設問ごと分析

出題内容				難易度	配点	出題内容				難易度	配点	
大問1		小問集				大問3		関数				
問1	問2	正負の数	A	5		問1	変域	A	5			
	問3	文字式	A	5		問2	直線の式	B	5			
	問4	平方根	A	5		問3	座標平面上上の図形(面積比)	D	5			
	問5	一次方程式	A	5								
	問6	連立方程式	A	5		大問4		平面図形(正方形)				
	問7	二次方程式	A	5		問1	角度	A	5			
	問8	累積相対度数	A	5		※ 問2①	相似の証明	C	7			
	問9	円周角	B	5		問2②	線分の長さ	D	5			
	問9	作図(回転移動)	B	6								
						大問5		空間図形(三角錐)				
大問2		規則性・文字式				問1	角度	A	5			
	問1	数値計算	B	5		問2	四角すいの体積	C	5			
※	問2	文字式による証明	C	7		※	は記述問題					

問題分析

1 小問集+作図 2 規則性・文字式 3 関数 一次関数・二次関数
4 平面図形 5 空間図形(分数のマークシートの順番は要注意)

講評 例年とほぼ同じような形式と難度。大問1は配点が高いので、落とさない。
大問2の問2、大問3の問3、大問4の問2②が難しい。難関高受験は要練習。
証明も部分点があるので、途中まででもいいので書くこと。
1 どれも基本的な問題。練習量を増やし、ミスを減らすこと。空欄は避ける。
円周角の問題は頻出。しっかり練習すること。
2 文字式を使った証明は慣れることが必要。過去問等を使って同じ形式の問題をどんどん実施して自信をつけよう。点数差がつく問題。
3 関数は得点源。問1・問2は必ず得点したい。
問3は難問。自作作成校でも出題される「座標を文字で置く」パターン。
4 図形問題は数をこなすことが必要。自分の頭で考える習慣をつけよう。
疑問点はそのままにせず、先生へ質問すること。問2(2)は難問。
5 「高さの等しい三角錐の体積の比は底面積の比と同じ」ということを理解していれば、比較的簡単にとける。

共通問題 英語

配点 大問1 20点 大問2 24点(3文の英作文1題) 大問3 28点 大問4 28点

2026年度試験問題 受検者平均点 61.2点

設問ごと分析

	出題内容	難易度	配点		出題内容	難易度	配点
大問1	リスニング			大問3	対話文読解		
問題A	対話文1 内容一致	A	4	問1	内容一致	A	4
	対話文2 内容一致	A	4	問2	内容一致	A	4
	対話文3 内容一致	A	4	問3	内容一致	B	4
問題B	Q1 内容一致	B	4	問4	内容一致	A	4
	Q2 内容一致記述	D	4	問5	内容一致	A	4
				問6	通語補充	B	4
大問2	対話文読解			問7	通語補充	B	4
問1	通語補充	C	4	大問4	長文読解		
問2	通語補充	B	4	問1	内容一致	A	4
問3(1)	内容一致	B	4	問2	文整序	B	4
※	問3(2) 英作文(3文)	C	12	問3(1)	内容一致	B	4
				問3(2)	内容一致	A	4
				問3(3)	内容一致	B	4
				問4(1)	内容一致	B	4
※	は記述問題			問4(2)	内容一致	A	4

問題分析

1 リスニング 2 対話文+英作文 記述は昨年と変わらず3文の英作文。
3 対話文 4 論説文

講評 長文の文章量は微増、内容も昨年並みなので、やや難度は上がった。
細かい文法よりも、丁寧に速く文章を読む習慣を身に付ける必要がある。

- リスニング 問題Aは易しい。問題Bが勝負。メモをしっかりとって聞くこと。
- 資料を読み取りながら、対話文を読解していくスタイル。
英作文は難しい表現は使わずに、文法のミスをしたくないことが重要。
「時刻・人称・単数か複数か」がチェックのポイント。
事前に自分の書きやすい文の形を身に付けておくこと、安心できる。
- 通語補充 傍線部の前後にヒントや根拠があるので注意して読むこと。
問6 それぞれの登場人物の意見をきちんと整理する必要がある。
- 内容はそれほど難しくはないが、文章量が多い。過去問等を使い長文問題に慣れておく必要がある。

共通問題 社会

配点 大問1 15点 大問2 15点 大問3 15点 大問4 20点 大問5 20点 大問6 15点(5点×20問)(記述3題)

2026年度試験問題 受検者平均点 59.9点

設問ごと分析

	出題内容	難易度	配点		出題内容	難易度	配点
大問1	(3分野総合)			大問4	(歴史)		
問1	地形図の読み取り	A	5	問1	時代の古い順に並べる	B	5
問2	江戸時代の人物	B	5	問2	安土城の位置	C	5
問3	検察官	A	5	※	問3 製糸場の数と立地	C	5
				問4	大正〜平成の出発点	B	5
大問2	(世界地理)			大問5	(公民)		
問1	南温国	B	5	問1	国民年金	B	5
問2	4つの国の特定	B	5	問2	公債発行額のグラフ	A	5
問3	資料よりその国の特定	B	5	問3	衆議院の優越	C	5
				※	問4 ノンステップバス	C	5
大問3	(日本地理)			大問6	(3分野総合)		
問1	4つの県の特定	B	5	問1	世界の4つの港の特定	B	5
問2	中部地方の特定	C	5	問2	文章の示す時期の特定	B	5
※	問3 土地利用の変化	B	5	問3	外国人の出身地域の特定	C	5
※	は記述問題						

問題分析

大問1・6 3分野より各1問。大問2・3地理 大問4 歴史 大問5 公民
地理分野の出題がやや多い。完答問題が多いので注意。
歴史古い順の並べ替えて差がつく。大きな時代の流れ等は覚えておく必要あり。

講評

記述が昨年と同じ3題。平均点は昨年とほぼ同じ。また、昨年と同様、平均的なレベルの問題が多く出題され、学習量により点差も開いた様子。
1 地形図と写真の問題は差がついた。過去問等を利用して、慣れておく必要あり。
問2問3は基本的な問題。
2 問1問2文中のキーワードに注目して、絞っていく。
問3は近年増えている資料よりその国を特定する問題。
3 文中のキーワードに気付けるか?各県の特長を頭に入れて置くことが重要。
記述 自分なりに目的意識をもって考える習慣をつけることが大切
4 地図・資料を見て、自分の頭で考える習慣をつけることが重要。
社会は暗記だけではないので、注意すること。
5 日本国憲法の条文は頻出。問3の「衆議院の優越」の問題は難問。
問3 バリアフリー関連の問題は近年注目されているので要注意。
6 交通の発達をテーマにした問題。
問3 知識だけでなく、文章と資料の読解力が試された問題。

※地図や図表は例年出題されているので日頃の学習の中で慣れておくこと

共通問題 理科

配点 大問1 24点 大問2 16点 大問3 16点 大問4 12点 大問5 16点 大問6 16点(4点×25問)(記述2題)

2026年度試験問題 受検者平均点 66.7点

設問ごと分析

	出題内容	難易度	配点		出題内容	難易度	配点
大問1	小問集			大問4(生物)	人体		
問1	被子植物の受精	A	4	問1	だ液の性質	A	4
問2	ロウの状態変化	B	4	問2	吸収	A	4
問3	音の波形	A	4	問3	細胞の呼吸と心臓	A	4
問4	化学変化と熱	C	4				
問5	太陽の日周運動	A	4	大問5(化学)	電気分解・イオン		
問6	菌類・細菌類	B	4	※	問1 電解質の水への溶け方	C	4
大問2	レポートを読んで			問2	塩化銅水溶液	A	4
問1	食塩水の濃度	B	4	問3	粒子の動き方	B	4
問2	岩石のつくり	B	4	問4	ダニエル電池の仕組み	D	4
問3	並列回路	B	4				
問4	無脊椎動物	A	4	大問6(物理)	力学		
大問3(地学)	気象			問1	おもりの質量	A	4
問1	水蒸気量	A	4	問2	ばねの伸びと仕事	B	4
問2	低気圧	B	4	問3	浮力	×	4
問3	寒冷前線	A	4	※	問4 水圧	B	4
問4	気象の変化	A	4	※	は記述問題		

問題分析

1 各分野の小問集 2 実験レポートを読んで出題される各分野の問題
3 地学(気象) 4 生物(人体) 5 化学(電気分解・イオン) 6 物理(力学)
※4分野からまんべんなく出題されている。苦手分野を作らないことが大切。

講評

細かい知識も必要で、時間をかけて勉強する必要がある。記述は今年も2題。
努力した生徒とそうでない生徒の得点差が開いた科目
1 各分野の基本的な問題。
吸熱反応はあまりなじみがないが、教科書でも紹介されている。
2 レポートを読んで答える問題。レポートから発展させる問題もある。
内容はそれほど難しくはない。
3 天気の変化と気象に関する問題。気象は暗記だけでなく、原理原則をしっかり理解することが必要。過去問を使って学習すること。
4 人体の問題。基本的な内容。全問正解したい。
5 イオンの性質に関する問題 仕組みをしっかり理解すること。
難関校受験者は問4できちんと正解する力を付ける必要あり。
6 力学の問題。グラフ・資料から必要な数値を見つめられたが勝負。
力学の分野も原理原則の理解が重要。疑問な点は質問することが大切。

※問題文が長いので、見つけた必要な情報に「しるし」をつけておくことよい。
※大問6問4は問題不備のため、受検者全員に得点を与える措置が取られた。
その為、平均点が例年に比べ高めになった。(問題レベルは例年とほぼ同じ)